

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2021年12月)

一. 研究内容について

今月末に日本ソーシャルワーク学会に論文を投稿した。内容は、7月に発表した「中国上海市における社区居宅養老サービスの展開過程」に基づいて修正した。論文のタイトルは「中国における社区居宅養老サービスの実践に関する研究—上海市における民間事業者による取り組みから—」である。前の発表に基づき、今回の投稿論文において、中国の政府主導と民間実践をめぐる葛藤について考察を追加した。考察は以下の通りである。

社区居宅養老サービスの展開過程において、国民の公助に対する依存性が高いため、民間事業者による主体的な取り組み、あるいは社区自治の運営が欠如していると考えられる。この課題を補完するため、政府が主な担い手として社区居宅養老サービスを推進する必要がある。しかし一方で、このような政府主導の方式は、社会資源に対するコントロールが強く、民間事業者の取り組みと社区自治のさらなる制限をもたらしているのである。

これらの葛藤は、政府主導による制度・政策の構造の破綻、及びサービスの市場化をはじめとした社区居宅養老サービス実践の未整備等の課題が未解決のまま推進され、互いに責任を転嫁していることにより生じていると考える。例えば、1990年代から社区居宅養老サービスは主に政府により開発、運営がなされてきたが、サービスに対するニーズの増大により、現在、入札方式によるサービスの運営が主流となっているため、多くの民間事業者の参加が必要になり、サービスの運営責任は徐々に民間に転換されている。しかし、サービスの発展における政府の役割をめぐる議論はなされているが、その責任転嫁の過程において、サービスの供給以外に民間事業者の役割は何か、民間によるイノベーションが実施できる範囲は何か、供給主体間をコーディネートする担い手は誰か等が明確にされていない。つまり、政府は責任を民間に転嫁する過程の中で、転嫁された役割と権限が明確にされていないのである。かつ、従来の政府主導のもと、民間事業者は政府による指導や政策に対する依存性があるため、実践における自発性や主体性が制限されている。一方、政府が制度や政策を制定する際に、民間事業者からの発信が少ないため、実践現場における問題点が十分に考慮されないまま、制度や政策が打ち出されてきた可能性がある。このように、サービスの運営に関して、行政機関と民間事業者の間に媒介する役割や機能が存在しないため、両者が互いに責任を転嫁した過程において、政府主導の理念と民間事業者の取り組みをめぐる葛藤が生じたと考えられる。

二. 生活について

先輩と同じ研究室の友達と共同研究を図り、今月はその研究の調査を実施しました。研究目的は、在日留学生、特に社会福祉を専攻する外国人大学院生の研究、及び生活上の悩みや困難を明らかにし、支援方法を提案するという事です。そのため、今月は2か所の大学院にそれぞれ5名、計10名の留学生にインタビューをしました。まだ学術的な研究方法で結果を分析していませんが、ただ留学生たちの話を聞いた後の感想をシェアしたいです。もう大学院生になったため、大きな困難や課題はないですが、やはり留学生にとって、一番難しいのは言葉の問題です。日本語の問題により、論文の執筆や、指導教授とのやり取り、友達作り等にいろいろな問題をもたらしています。その日本語の問題は、ただ相手の意味を分かって、自分の意思を話すではなく、言葉のニュアンスや異文化の差によ

り、誤解をおこしたり、自分の気持ちや言いたいことがうまく伝えられないことにあります。つまり、言葉の壁があります。その言葉の壁を半透明のシートに比喻したいです。留学生たちはその半透明のシートを通して生活しているように、向こうに何が発生したのかがだいたいわかりますが、細かく見るとは言えません。それゆえ、積極的に日本人の友達が作れないとか、団体の一員として参加することができなく、マイノリティとして周辺化され、孤独感を感じていることが少なくないです。その壁を破るために、ものすごく勇気と努力を出す必要があります。まだ支援策まで進んでいないですが、誰かがその壁を破ることに支援できればと思います。